



▲「太陽の町」にて花束交換



◀アーチェリー模範試射

▼車イスバスケットの交歓試合



夢と希望をのせて!

外出機会に恵まれない重度身体障害者に楽しい旅を——県身体障害者福祉協会連合会が国際障害者年を記念して企画した「希望の翼」一行(荒木斉団長)が、4月10日熊本空港から元気に沖縄に向け旅立った。

一行は身障者67人と家族ら計107人で三泊四日の日程で守礼門や海洋博記念公園などを見学、12日には沖縄県南風原町にある重度身体障害者授産施設「おきなわ太陽の町」を見学し、木工作業や土産品製作工程などでは、「こんにちは」がん張って下さい」と声を掛け合い交歓を深めた。また、体育館では歓迎式や、熊本・沖縄両県の車いすバスケットクラブの交歓試合、アーチェリーの模範試射などを行った。

参加者の一人は「太陽の町」で入所者の人たちが笑顔で一生懸命仕事をし、努力されている姿が印象に残り、これを自立と社会復帰の励みにすると語っていた。